九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

明治後期における「優良」小学校長の履歴

元兼，正浩

https://doi.org/10.15017/810

出版情報：教育経営教育行政学研究紀要. 2, pp.51-79, 1995-05-10. 九州大学教育学部教育経営教育行政学研究室
バージョン：
権利関係：

教育経営 教育行政学研究紀要，1995，第2号，51－79

【資料紹介】

明治後期における「優良」小学校長の履歴

元 兼 正 浩

1．はじめに

本資料は，國民教育學會の機関雑誌『日本之小學教師』第1號（明治32年4月）から第20號（明治33年9月）に随時掲載された「優良なる小学校長の畧歴（略歴）」の記事に注目し，ここで紹介されている全校長(100名）を個人別に1生年，2族籍，3出身地，4学歴，5資格・所有免許状，6赴任学校名・職位，7俸給額，8表彰・賞与，9役職・兼職状況などの属性に着目してこれらを年代順に編集・整理したものである(1)。

この「優良なる小学校長」の連載記事の冒頭において，「我邦各府縣の小學校教師中，優秀抜群にして特に功績あるものを表彰するは，本會の大主眼とする所なり」（第1號，37頁）との記述がみられるように，國民教育學會の設立趣旨の一つは「優良」な校長や教師，学校などを全国的に悉く調査し，表彰することにあった(2)。そのため同會はこの点にかなり力を注いでおり，調査結果にはある程度の信頼性が期待できる。特に，上記に掲げたような個人の属性（人事に関する情報）についてはかなりの客観性が担保されているものと推察される。

これらの定性的（属性的）な検討を通して，わが国の小学校において校長職が確立されたといわれる明治30年代当時の「優良」小学校長の一般的・代表的プロフィール，すなわち理想の小学校長の履歴ひいては明治後期における理想の小学校長像を描きだそうとすることが本研究の究極の目的である(3)。したがって，本資料の作成はそのための基礎作業となるものである。この資料の分析はキャリア分析やライフコース研究など社会学関係の先行研究に学びながら，後日あらためて行なう予定であり，以下では本資料からうかがえる全般的傾向について，その概略を紹介しておきたい。

2．調査結果

ここでは総勢100名（通し番号では**1**～**99**となっているが，実は**52**番が重複）の「優良なる小学校長」の履歴（プロフィール）を数量的に整理した結果について若干報告する。

まず，普通免許状の取得状況についてであるが，表1－1にみられるように少なくとも56名が普通免許状の保有者であり，これは調査対象の校長の半数以上にあたる数である。

そもそも普通免許状は明治19年6月の小学校教員免許規則（文部省令第12号）の発布によりもうけられたものである。全国かつ終身有効の普通免許状は「高等師範学科卒業生若クハ地方免許状ヲ有シテ五箇年以上勤務シ，学術授業トモ超衆ノモノニ之ヲ授与スルモノトス」（同規則第9条）とされ，「最初は之を受くるもの少かりしを以て，世人も頗る之を尊重せし」（第2號，50頁）の記述にみられるように，明治24年11月の小学校教員検定等ニ関スル規則（文部省令第19号）の制定によってこれが改正されるまでは普通免許状を授与されることはきわめて希有なことであった（表1－2参照）。それにもかかわらず，100名中少なくとも23名が明治24年までに普通免許状を授与されており，彼らが「優良」と称されるのも頷けよう。

次に，現任校および現職名についてである。表２をご覧いただきたい。ヨコの行が現職名をタテの列が現任校の種類を表しており，ここでいう「尋高小学校」は尋常高等小学校（もしくは尋常科・高等科併置の小学校）を指す[4]。

本表から「優良校長」といっても訓導が混在していることがうかがえるが，単級学校などで校長同様に取り扱われていた(首座)訓導が当時多かったことの反映ともみられよう。

また，通し番号**62**番以降は「訓導兼校長」の職名ばかりで「校長」の職名は全くみられないことに気がつく。**62**番の優良校長が掲載された同誌第10号は明治33年１月の発行であり，第３次小学校令の制定は同年の８月であるため，法令上の直接の影響ではなさそうであるが，これが編集上の変更なのか（しかし，**61**番も同10号に掲載されている），何らかのインパクトによる実態上の変化なのかを今後は見極めていく必要がある。

現任校の種類について言えば，高等小学校に在職している「優良」校長が多いことに気づくであろう。文部省統計によれば[5]，高等小学校数は当時小学校総数の６％を占めるにすぎなかった。にもかかわらず，全体の38％にあたる38名の「優良」校長が高等小学校に在職しているのである。したがって，学校種間に高等小学校＞尋常高等小学校＞尋常小学校という序列・格差が存在し，それを前提にして異動が行なわれていた実態が浮かび上がってくる[6]。

第３に誕生年と族籍についてである。表３で通し番号に下線を付しているのが士族であり，少なくとも37名が士族であることが判明した。本表をみる限り，誕生年や掲載期など時期的な偏りはないようである。尋常中学校などでは士族でないために校長になれないケースも散見さ

表 1-1 「優良」校長の普通免許状受領状況

明治	（**太数字**は通し番号）
20	
21	**22**
22	
23	**2 4 13 26 29 39 77 78**
24	**1 5 6 10 14 23 25 37 56 61 62 86 91 94**
25	**9 35 40 79**
26	**7 12 18 42 44 53 54 55 67**
27	**8 15 21 30 36 41 81**
28	**59 63 92 93**
29	**16 33 87**
30	**11 49 75**
31	
32	
33	
34	
35	**68**
不明	**74 80**

表 1-2 全国の普通免許状受領者数（人数）

明治	優良	全 国	明治	優良	全 国
19年	0	0	28年	4	182
20年	0	2	29年	3	147
21年	1	1	30年	3	178
22年	0	8	31年	0	320
23年	8	33	32年	0	265
24年	14	138	33年	0	300
25年	4	143	34年	0	191
26年	9	212	35年	1	274
27年	7	233	合計	54＋2	2627人

（この全国統計については『日本之小學教師』の各号に掲載された「普通免許状受領者」の一覧を参考にして作成した。「優良」は表１－１に掲げた優良小学校長の数である。これについては普通免許状取得の記述がある者のみに限定して計上しており，実際にはそれ以上の数にのぼるものと思われる。）

表２ 「優良」校長の現任校・現職名

	高等小学校	尋高小学校	尋常小学校
校長	**1 4 7 9 13 14 15 16 17 24 25 29 32 33 35 42 45 46 47 50 53 60 61**	**2 3 5 8 10 11 12 21 22 23 26 34 36 38 39 41 43 44 48 49 52 52 54 55**	**6 18 19 27 30 31 37 40 51 56 57 58 59**
訓導兼校長	**72 77 78 79 81 83 84 90 91 92 93 94**	**74 75 99**	**62 63 64 65 67 68 82 85 86 87**
訓導	**80 95**	**69 70 98**	**20 28 66 96 97**

その他，私立小学校設立者兼教員…**71**
物故者（尋常小学校訓導兼校長）…**76**

れるが[7]，小学校では若干事情が異なるのかも知れない。この点については一般教員層における士族の占める割合などとの比較を経年分析的に行ない，吟味する必要があろう[8]。

第4に校長の学習歴についてであるが，幼少の頃から藩校などで漢学を学んでいるケースが多い[9]。また表4にみられるように，少なくとも54名の者が師範学校を卒業しており，伝習所・講習所の卒業生をあわせるとかなりの数にのぼる。なお，師範学校卒業生のうち小学師範学科を卒業した者が31名，高等師範学科を卒業の者が5名いることが判明した（表中＊印）。さらに，本表から明治8年～10年頃の卒業者が多いことがうかがえる。

表3　「優良」校長の誕生年と族籍

文政11	1828年	6　（下線は士族）
	～～～	
天保6	1835年	78 97
7	1836年	52′ 95
8	1837年	21
9	1838年	20 51
10	1839年	10
11	1840年	60 68 89
12	1841年	28 39 71
13	1842年	16 37
14	1843年	13
弘化元	1844年	
2	1845年	41
3	1846年	8 9
4	1847年	1 19 58 76 91 96
嘉永元	1848年	44 77
2	1849年	2 7 11 34 43 47 62 79 80 86
3	1850年	14 45 57 66 90
4	1851年	24 48
5	1852年	18 30 54 63 64 72 84 87 99
6	1853年	5 22 25 26 38 61 75 83 85
安政元	1854年	53 70 82 94
2	1855年	27 31 33 46 55
3	1856年	3 4 17 67 74 88 98
4	1857年	56
5	1858年	29 32 35 42 49 73
6	1859年	50 52 59
万延元	1860年	12 23
文久元	1861年	
2	1862年	69
3	1863年	
元治元	1864年	
慶應元	1865年	92
2	1866年	36 93

第5に校長昇進年についてである。明治10年頃に校長職が成立したと一般には指摘されるが，実際はほとんど皆無で，表5のように明治15～16年，および明治20年頃にピークがみられる。

表4　「優良」校長の師範学校卒業状況

卒業年 明治	（＊印は高等師範学科卒業者）
5	
6	
7	2 31 44 52* 77
8	1 6 11 13 18 26 34 38 46 68 72 83 89 98
9	7 15 24 33 53 62 82 86 88 91
10	4 10 23* 29 32 47 49 50 67 74 80 94
11	5 9 30 55 73 76
12	40* 66
13	
14	52
15	
16	36 61
17	
18	17 92* 93*
19	
20	56

表5　「優良」校長の校長昇進年

明治	
7	(71)
8	
9	
10	21
11	
12	11
13	22
14	(M.9～M.17) 53
15	2 4 6 10 14 15 32 33 52′ 62 73 86
16	23 25 34 42 43 50 51 68 74 88 90
17	26 44 54 77 85 91
18	24 31 63 70 83 87 94
19	1 13 23 39 40 48
20	7 9 16 18 19 29 35 37 38 41 49 56 59 60 69 79
21	20 28 45 52 58 78
22	8 36 55 82
23	12 47
24	21 67 75 76
25	5 27 46 81 93
26	17 57
27	3 84
28	
29	
30	61 72

最初の波は明治14年の太政官達第52号にもとづいて各府県が小学校職員職制の類を制定したためであり，次の波は明治19年の閣令第35号により，小学校職員職制を改定したためであると推察される[10]。

第6に，表彰・賞与状況，および役員・兼職状況に関してである（以下，括弧内の数は判明した件数）。まず前者については，文部省より「教育上勤労不尠」などと評されて一等賞（または二・三・四等賞）を下賜されたり（6件），康熙事典・六國史・玉篇一部や硯箱一個を賞与されたりするケースがかなり見受けられる（29件）。また，府県より硯箱・木杯や功績状・功績章を賞与されるケース（5件）も散見された。大日本教育会など教育団体より功績章や銀製会章などを贈られるケース（13件）も多くみられた。さらに，師範学校在学中に学業優等を理由として金円を下賜されたり（3件），反対に公共事業に金円を投じたことから木杯賞状などを賞与されるケース（10件）も目に付いた。

後者については，小学校教科用図書選定審査委員（14件）や市・私立教育会長（3件），講習会会長（8件），小学校教員学力検定委員（3件），小学授業生学力試験委員（3件）や教育諮問会員（1件），学務委員（3件）を務めたり[11]，夜学で教授する者（2件）もみられた[12]。

表6　高給小学校長の俸給一覧（人）

府県名／月俸(円)	兵庫県	熊本県	愛知県	宮城県	静岡県	京都市	北海道	広島県
45	2		1			1	2	
40～44			1	2	1	1	6	1
35～39	1		3	1	2	1	5	1
30～34	1	3	2	7	7	4		2
25～29	8	6	6	3		6		9
20～24	2	3						
備　考				他に26円が数名				他に25円は多数

（『日本之小學教師』第一號より作成）

第7に俸給に関してである。月俸額は個人のレベルでは基本的に昇給の方向にすすむ傾向にあるが，生年，入職年，教職歴，昇進状況などに個人差があるため，その時代の一般的な傾向は把握しがたい。明治三〇年代当時の全国的な状況については『日本之小學教師』各号に随時掲載の「〇〇縣下高給の小學校長」記事を参照するとおよその傾向は把握できる。ちなみに第1號に掲載の8県市の状況をまとめたものが表6であり，月俸20円以上が当時は高給とされており，最高でも月額45円程度であったことがわかる（資料の**1**にみられるような長野県の事例は「全国最高給」といわれるように，むしろ例外的である）。したがって，中等教育機関の「長」との格差は歴然としており[13]，ここでも経年的な比較研究が必要であろう。また，年功加俸制度の検討なども当時の校長（教員）給与政策を知るうえで重要となるであろう。

その他，中等教育機関や行政との人事交流の実態（師範学校の1～4等教諭・1～2等助教諭・書記など21件，中学校教諭・助教諭7件，女学校教諭・校長7件など。判任官5～8等の県属10件，郡視学・郡書記6件，小学督業10件など）や複数学校長の兼任状況（18件）[14]，出身地と現任校の所在地（少なくとも所在県）がほぼ一致すること（同県67件，その内32件は同郡市。これに対して異県は12件。また不明が16件あるが，学習歴からその多くは同県出身者とみられる），頻繁な人事異動（在任期間の短かさ）の理由なども今後はより厳密に調査・検討していく必要があろう。

註

（1）　後掲の資料において，各々の出典は以下の通りである（いずれも熊本大学教育学部所蔵『日本之小學教師』（復刻版）より作成）。
1～9は，第1巻第1號（明治32年4月）
10～12は，第1巻第2號（明治32年5月）
13～18は，第1巻第3號（明治32年6月）
19～25は，第1巻第4號（明治32年7月）

26～30は，第１巻第５號（明治32年８月）
31～36は，第１巻第６號（明治32年９月）
37～43は，第１巻第７號（明治32年10月）
44～52は，第１巻第８號（明治32年11月）
52～60は，第１巻第９號（明治32年12月）
61～64は，第１巻第10號（明治33年１月）
65～67は，第２巻第15號（明治33年４月）
68～70は，第２巻第16號（明治33年５月）
71～75は，第２巻第17號（明治33年６月）
76～83は，第２巻第18號（明治33年７月）
84～89は，第２巻第19號（明治33年８月）
90～99は，第２巻第20號（明治33年９月）

（２） たとえば，笠間賢二「明治期における選奨制度成立の意義－教員選奨を中心に」（東北大学教育学部教育行政学・学校管理・教育内容研究室『研究集録』第12号，1981年）では，この『日本之小學教師』に掲載されていた「○○縣（府）下成績佳良の小学教師」などの記事をフォローして各府県の教員選奨状況を把握，分析している。

（３） 元兼正浩「明治後期における小学校長職の地位と役割」日本教育経営学会第34回大会（於：福井大学）自由研究発表(1994年6月5日)資料，拙稿「明治末期における『学校経営』論と校長の役割－山松鶴吉『模範的小學校経営の實際』（M.43）の分析を通して」（『九州大学教育学部紀要（教育学部門）』第40集，1995年，所収）なども同様の意図である。

（４） 併置制の高等小学校について詳しくは，三羽光彦『高等小学校制度史研究』法律文化社，1993年，40～44頁。

（５）『文部省第28年報』によれば，明治33年の小学校総数は26,856校で，その内訳は高等小学校1,607校，尋常高等小学校4,366校，尋常小学校20,883校であった。

（６） 戦前の中等教育機関における学校種間格差と校長人事異動の関係については，拙稿「校長人事異動の実証的研究――福岡県公立高等学校を事例として――」『日本教育行政学会年報』第19号，教育開発研究所，1993年，158～159頁の注(3)を参照。

（７） 例えば『北野百年史――欧学校から北野高校まで――』1973年，462頁。

（８） 師範学校附属小学校訓導（教諭兼任を含む）という特殊環境にいる教員を対象にした調査ではあるが，明治10年代には80％であった士族の割合が明治30年代には50％程度にまで目減りしていることが先行研究では明らかにされている（唐澤富太郎『教師の歴史』創文社，1955年，86頁）。

（９） 教員履歴書を用いてその学習歴を紹介した研究として，生馬寛信「明治前期佐賀県小学校教員の学習歴(1)――教員履歴書によってみる――」（『佐賀大学教育学部紀要』第40巻第２号，1992年，所収），生熊寛信「明治前期佐賀県小学校教員の学習歴(2)――第７学区（杵島郡・藤津郡）の教員履歴によってみる――」（『佐賀大学教育学部紀要』第42巻第１号，1994年，所収）がある。

（10） 後者の波についての検討は，拙稿「第一次小学校令期における校長人事行政の実態――長崎県庁文書の検討を通じて――」『九州教育学会紀要』第22号，1995年６月（予定）においてすでに行なっているので参照されたい。

（11） 第３次小学校令第62条の規定にもとづいて学務委員を兼任していた校長が，当時は多かったようである。例えば兵庫県川西市立東谷小学校『沿革史 その一』では，「仝月（明治39年５月－引用者・註）七日　校長野路静夫小學校令第六十二條ニヨリ本村學務委員ニ任ゼラル」との記述がみられる。

（12） 拙稿「戦前の学校管理職をめぐる諸問題（その一）――明治後期における父母・地域社会とのかかわり――」『学校経営』第39巻第13号，第一法規，1994年12月，77～78頁，参照。

（13） 明治32年に大阪尋常中学校に着任した第４代校長太田達人の年俸は1200円（単純計算で月額100円）であった（前掲『北野百年史』191頁）。長野県松本中学校長の小林有也の明治34年の年俸もまた1200円であった（『長野県松本中学校　長野県松本深志

高等学校　九十年史』1969年，169頁）

(14) 明治32年当時になると，複数小学校を兼務する校長の数はかなり少なくなる。東京市の場合，67の公立小学校中，兼任校長はわずか2校であった（『日本之小學教師』第1号，50～51頁）。

【資　料】

明治後期における「優良」小学校長の履歴

（出典：「優良なる小学校長の畧歴（のち略歴）」『日本之小学教師』第1号～第20号より作成）

1 渡邊　敏　　福島県士族　弘化4年生まれ
長野市　高等小学校長

明治8年10月　東京師範学校（小学師範学科）卒業
明治8年8月　長野（筑摩）県（北安曇郡）仁科小学校訓導に任ぜられる
明治15年11月　一等訓導に昇進（月俸40円…全国最高給）
明治15年11月　（長野県師範学校より終身有効の考績卒業証書を授与）
明治16年12月　（文部省より教育上勤労不尠廉として二等賞を賜う）
明治18年1月　福島県師範学校二等教諭に栄転
明治18年3月　福島県若松中学校に転任
明治19年5月　福島県福島中学校に転任
明治19年8月　長野県（上水内郡）長野小学校長兼訓導を拝命（月俸40円）
明治21年4月　（月俸45円に増給）
明治24年7月　（文部省より普通免許状を授与される）
明治25年10月　（月俸50円に増給）
明治29年3月　高等女学校長を兼任（月俸55円に増給）
明治31年　（月俸60円に増給，年功加俸をあわせて69円…全国最高給）
「禮讓恭倹」

2 權太　政　　山梨県　嘉永2年生まれ
山梨県　尋常高等小学校長

明治7年　東京師範学校卒業
長崎県勝山小学校三等訓導に任ぜられる
明治10年　長崎県師範学校事務取扱を兼任
明治14年11月　同師範学校三等教諭に補せられる（月俸30円）
明治15年5月　（同師範学校より優等小学高等師範学科卒業証書を付与される）
山梨県甲府市尋常小学校長となる（月俸35円）
明治23年11月　（普通免許状を授与される）
明治25年　山梨県甲府市甲府尋常小学校長に任ぜられる（月俸40円）
「温厚篤実」

3 三島豊三郎　　和歌山県　安政3年生まれ
横浜市　尋常高等小学校長

明治3年　旧和歌山藩漢学助教準席手伝となる
明治6年　和歌山雄小学在勤を命ぜられる
明治10年2月　（主上御臨幸の際，学業優等ゆえ金円を下賜される）
明治10年7月　（官立大坂師範学校に於て小学師範学科卒業証書を受領）
尋て　和歌山県三等訓導に任ぜられる
第十九中学区巡回教員を申付けられる
明治14年12月　和歌山師範学校一等助教諭に昇進
和歌山中学校一等助教諭を兼務
明治15年1月　東京体操伝習所へ派遣される
明治15年2月　教育通信委員を嘱托される
明治16年　和歌山師範学校及び中学校監事兼務を命ぜられる
（無試験で高等小学師範学科卒業証書を受領）
明治16年11月　（教育上勤労不尠として文部省より三等賞を下賜される）
明治19年2月　（文部省より中学校師範学校体操科免許状を受領）

明治19年５月　（中学校師範学校生理教育二科の免許状を得る）
明治19年６月　神奈川県師範学校三等教諭となる
明治19年10月　神奈川県属に任ぜられる
判任官六等に叙せられ第二部学務課員を命ぜられる
明治22年　判任五等に昇級
明治27年２月　横浜市横浜尋常高等小学校長（現職）に転じる（月俸55円）

「鋭意熱心」
・小学校教員学力検定委員に10数回命ぜられる
・図書審査員，臨時博覧会事務委員となる
・公共事業のため金円を投じ，木杯及び賞状を得る
・職務勉励ゆえ賞与は枚挙に暇がない

4　堤　辰二　　群馬県　安政３年生まれ
群馬県　高等小学校長

明治10年　東京師範学校入学
同校（小学師範学科）卒業
明治11年　師範学校四等教諭に任ぜられる
明治13年４月　高崎第一公立小学校へ転勤
明治14年　同校教師となる
明治15年４月　校長に挙げられる
明治16年３月　太田小学校長に転任
爾来　高崎，群馬，片岡，各校の長となる
明治23年　（普通免許状を取得）
明治23年４月　高崎高等小学校長（現職）に任ぜられる（月俸28円）
（二等下級俸に至る）

「校務熱心」

5　近　新次郎　山形県士族　嘉永６年生まれ
山形県　尋常高等小学校長

明治７年１月　松岬学校三等仮訓導を命ぜられる
明治９年　県費にて置賜県県立小学教員講習所入学
（小学師範学科卒業証書を受ける）
松岬校二等訓導に昇進
明治15年　興譲学校五等訓導に任ぜられる
南置賜中学校準助教諭を兼任
明治15年10月　（南置賜郡教育講究会長を命ぜられる）
明治18年５月　（山形県より木杯三組，硯箱一個を賞与される）
明治20年１月　興譲尋常高等小学校訓導に任ぜられる
明治20年７月　（康熙字典一部，硯箱一個を賞与される）
明治22年　（米沢小学校教員講師を命ぜられる）
明治23年５月　（米沢市教育諮問会員を嘱託される）
明治24年２月　（小学校教員普通免許状を受ける）
明治25年４月　興譲尋常高等小学校長（現職）となる

6　多喜貫一　　三重県士族　文政11年生まれ
三重県　尋常小学校長

安政４年　漢学を修める
明治８年　旧度会県師範学校（小学師範学科）卒業
三等授業を拝命する
明治15年10月　一志郡八知学校校長に任ぜられる
（三重県師範学校より終身中等師範学科卒業有効証書を受領）
明治24年７月　（普通免許状を受領する）
明治25年３月　（大日本教育会より功績章を贈与される）
明治26年５月　八知尋常高等小学校長に任ぜられる（月俸25円）
明治32年　（文部省より一等賞として六国史一部，硯箱一個下賜される）

・72歳の高齢であるが，武道に堪能
・公共事業に金円を投じ，しばしば賞を受ける

7　木村篤道　　金沢市　嘉永２年生まれ
金沢市　高等小学校長

明治４年　旧金沢藩文学訓蒙加となり，分課梅本町小学掛を命ぜられる
明治６年　小学校六等出仕（中学校在勤）を命ぜられる
明治７年11月　石川県師範学校入学
同校（小学師範学科）卒業し，四等訓導を申付けられる
明治10年４月　六等訓導を嘱任され，第一師範学校在勤を命ぜられる
尋で　第一女子師範学校に奉職する

明治15年８月　石川県富山師範学校一等助教諭に挙げられ，一等書記を兼任
明治17年３月　（文部省より六国史一部，硯箱一個を下付される）
明治17年４月　富山県師範学校一等助教諭兼書記に任ぜられる
明治19年８月　富山県属に転じ，判任官八等に叙す
　　尋で　上新川郡書記に任ぜられる
明治20年　職を辞し，石川県石川郡尋常科地黄煎小学校長に任ぜられる
明治24年４月　金沢市尋常科西町小学校長兼簡易科西町小学校長となる
　　尋で　金沢高等小学校長，金沢市高岡町高等小学校長（現職）となる
明治25年１月　（地方免許状を得る）
明治26年４月　（小学校教員普通免許状を得る）
明治26年10月　（石川県より教育功績状及び一等教育功績章を授与される）
・農閑期，毎夜２，３時間青年子弟に読書・算術・習字を教授

8 越　矩房　　長崎県　弘化３年生まれ
長崎県　尋常高等小学校長

明治７年　長崎県講習所に入り，下等小学科教授法を受ける
小学二等教員を申付けられる
明治10年９月　上等小学科を卒業
明治11年３月　厳原中学分校助教となり，厳原小学校兼務を命ぜられる
明治14年４月　朝鮮国釜山共立学校教授となる
明治22年３月　同校辞職
明治22年４月　大浦尋常高等小学校長（現職）となる
明治26年　（小学校教員地方免許状を受ける）
明治27年７月　（普通免許状を得る）

9 相馬保之進　　青森県　弘化３年生まれ
青森県　高等小学校長

明治９年　青森県師範学校入学
同校（小学師範学科）卒業
青森第十五中学区第三大区教督補となる
明治14年７月　青森県女子師範学校教頭に任ぜられる
　　尋で　青森県師範学校教員兼事務掛となる
明治17年　青森県女子師範学校監事となる
明治20年４月　弘前高等小学校長に任ぜられる
　　尋で　青森県属判任官八等学務主任に転じる
明治21年　ふたたび弘前高等小学校長（現職）に任ぜられる
明治25年10月　（普通免許状を下付される）

10 丹所啓行　上州安中士族　天保10年生まれ
東京市　尋常高等小学校長

安政２年５月　藩学局講師となる
安政５年　江戸在勤を命ぜられ，近習役となる
明治３年３月　安中藩文武権少属に選ばれる
明治８年６月　東京師範学校入学（36歳）
明治10年３月　同校（小学校師範学科）卒業
　　直ちに　東京府学務課雇を拝命（月俸20円）
　　同時に　芝櫻川女学校取締を兼務
明治11年４月　日本橋城東小校三等訓導に転任（府庁より金円を２回下賜される）
明治12年　（東京教育会幹事に選ばれる）
明治15年５月　番町小学校一等訓導兼校長に任ぜられる
明治16年12月　（文部省より六國史一部，硯箱一個を交付される）
明治17年10月　（月俸25円に増俸）
（東京府師範学校より終身有効の功績卒業証書を授与される）
（月俸30円に増俸）
明治24年２月　（文部省より普通免許状を交付される）
明治24年４月　（月俸33円に増俸）
（月俸50円となる）
（年功加俸と併せて57円50銭で府下首位に）
・大日本教育会組織委員，議員，常置委員となる

11 神矢粛一　　兵庫県　嘉永２年生まれ
兵庫県　尋常高等小学校長

明治６年　東京師範学校入学
同校（小学師範学科）卒業
明治８年７月　姫路伝習所在勤を命ぜられる（月俸20円）
明治９年12月　兵庫県豊岡師範学校二等訓導に任ぜられる

明治10年２月　同校長に任用される（月俸25円）
明治11年　神戸師範学校校長心得を命ぜらる
明治12年９月　城崎郡豊岡小学校校長となり，城崎美倉両郡授業生伝習所長を兼任する
尋で　一等訓導となり，小学校督業に任ぜられる
明治24年　兵庫県尋常高等小学校長に任ぜられる（月俸35円）
明治30年　（月俸40円に進級）
之より先き　（文部省より小学校教員普通免許状を授与される）
「温厚篤実」
・勉励手当の類は枚挙に暇がない

12 安藤定一　萬延元年生まれ
千葉県　尋常高等小学校長

明治９年　小学助教を申付けられる
明治14年　（初等科教員免許状を得る）
（中等科高等科教員免許状を授与される）
明治23年２月　暢發尋常小学校長に任ぜられる
明治26年　暢發尋常高等小学校長（現職）に任ぜられる
明治26年12月　（普通免許状を受ける）
「謹厳」「温厚」
・僻村に居ても新刊書諸新聞の講読を怠らない

13 杉山貞君　福岡県　天保14年生まれ
福岡県　高等小学校長

明治７年７月　官立長崎師範学校入学
明治８年13月　同校（小学師範学科）卒業
明治７年11月　長崎外国語学校国文書授読師を命ぜられる
明治９年　小倉化育小学校訓導を申付けられる
明治13年11月　中学小倉分校幹事兼教授に転任
明治15年９月　小倉中学校長兼一等教諭に任ぜられる
（企救郡私立教育会長に選ばれる）
明治16年　（文部省より六国史一部，硯箱一個を附与される）
明治19年　小倉高等小学校長に転任
尋で　福岡県尋常師範学校一等書記兼教諭試補に転任
明治20年　小倉高等小学校長に復任
明治21年　（福岡県知事より康熙字典一部を賞される）
明治21年　（北白川宮殿下より御盃一個を賜る）
明治23年　（文部省普通免許状を受領する）
・教育会評議員，学務委員，中学校評議員等に選ばれる

14 三浦晟彦　嘉永３年生まれ
熊本県　高等小学校長

明治７年　熊本県仮師範学校卒業
草葉小学校に奉職
千草，上野，壷内等の各小学校に転勤
明治14年　（熊本県より表彰状を受領する）
明治15年４月　熊本県公立壷川小学校長に挙げられる
尋で　（高等科教員免許状を受ける）
明治16年　（文部省より六国史一部，硯箱一個を付与される）
明治18年　北辰小学校長に任ぜられる
明治20年　熊本県高等小学校に任ぜられる
明治24年　（大日本教育会長より銀牌を贈与される）
明治24年10月　（文部省より小学校教員普通免許状を受領する）
明治25年９月　熊本高等小学校長（現職）となる（月俸20円）
更に　（月俸28円に進む）

15 鈴木安利
宮城県　高等小学校長

明治９年７月　宮城師範学校（小学師範学科）卒業
尋で　（牡鹿郡）根岸小学校に三等訓導として奉職
明治10年10月　北方村小学校訓導に転じる
明治13年12月　公選により宮城県教育会委員となる
明治14年　職を辞し，北村小学校訓導を依嘱される（月俸20円）
明治15年10月　（高等小学師範学科卒業証書を受ける）
（桃生郡）北村小学校長となる
明治16年11月　（三等賞として文部省より康熙字典一部硯箱一個を付与される）
明治17年　（桃生郡）広淵小学校長になる

明治20年６月　同尋常高等小学校長に任ぜられる
　　次で　（桃生郡）第一第二小学区督業訓導を命ぜられる
明治22年８月　督業廃せられる
　　即ち　深谷高等小学校長に任ぜられる
　　同尋常小学校長を兼任
明治25年３月　（地方免許状を受ける）
明治27年４月　（文部省より小学校教員普通免許状を授与される）
明治28年６月　（宮城県教育会中央部総理より賞状を贈られる）
明治29年４月　（桃生郡）深谷高等小学校長に任ぜられる
　　広淵尋常小学校長を兼任（三級上俸を給与される）
・小学授業試験委員を９回命ぜられる
・数次，賞を受ける

16 井上半介　京都府　天保13年生まれ
京都府　高等小学校長
明治５年８月　（船井郡）室橋村進修小学校句読師に任ぜられる
明治10年３月　（京都府より小学校教授科卒業証書を受領）
　　准七等訓導に任ぜられる
明治15年８月　（小学校中等科教員免許状を受ける）
　　（船井郡）進修小学校五等訓導に任ぜられる
　　同校校長の職を兼任
明治20年８月　（小学校教員免許状を受ける）
　　（船井郡）船枝尋常小学校長に任ぜられる（中級三等俸を給せられる）
明治21年１月　（船井郡）高等小学校長となる
　　（上級四等俸を給せられる）
　　（二等俸を受ける）
明治25年　小学令施行により（船井郡）高等小学校廃校のため，園部高等小学校長（現職）に任ぜられる
明治29年４月　（文部省より小学校教員普通免許状を授与される）

17 元木五鉀　東京小石川　安政３年生まれ
香川県　高等小学校長
少より　専ら漢学を修める
明治５年　第六区小学二等試補を命ぜられる
明治11年11月　小学三等訓導補連区監視専務を申付けられる
明治12年５月　上京本所小学校訓導となる
明治14年　札幌創成学校在勤を命じられる
　　次で後　志国岩内野御鉾内学校に移る
明治18年５月　愛媛県師範学校に入り，規定の学科を修了する
明治19年２月　愛媛県（香川郡）第一高松小学校五等訓導に任ぜられる
　　鶴屋町尋常小学校に移る
明治21年10月　（小豆郡）淵崎高等小学校に転任（月俸20円を給せられる）
明治25年３月　徳島県尋常師範学校書記に任ぜられる
　　同校訓導を兼任
明治25年３月　尋常師範学校助教諭心得兼務を命ぜられる
　　次で　（三級俸を給せられる）
明治26年11月　香川県（大内郡）白鳥高等小学校長（現職）になる
　　（三等上級俸を給せられる）
・しばしば小学校教科用図書選定審査委員となる
・授業生試験委員となる
・功労多く賞をしばしば受ける

18 中沢　中　新潟県　嘉永５年生まれ
新潟県　尋常小学校長
幼時　旧長岡藩校にて漢学を修める
明治８年12月　官立新潟師範学校（小学師範学科）を卒業
　　四等訓導に任ぜられる
　　尋て　三等訓導に昇進
明治10年１月　新潟師範講習所勤務を申付けられる（月俸20円を給せられる）
明治14年　新潟県新潟学校三等助教諭に任ぜられる
　　附属小学校取締を命ぜられる
明治15年12月　（県立新潟学校にて終身有効高等師範学科考績卒業証書を受領）
明治18年　二等助教諭に進む（月俸25円）
明治20年４月　新潟県高等科柏崎小学校長に任ぜられる
　　のち　水原加茂等の小学校に転じ，校長としてその技量を振るう
明治26年７月　（小学校教員普通免許状を得る）
明治30年６月　新潟県（南蒲原郡）三條尋常小

学校長（現職）となる（月俸金35円）
・10数回慰労金を受ける
・小学校教員伝習のため各地に出張
・講習会会長となる
・教員検定試験委員となる

19 生駒東太　大阪府　弘化4年生まれ
大阪府　尋常小学校長

明治7年　泉川四番小学（堺宿院小学校）三等出仕を命ぜられる
明治10年　（堺熊野小学にて天覧授業）
明治15年　大阪府六等訓導になる
明治16年8月　堺区第一学区宿院小学校長心得を命ぜられる
明治16年11月　（文部省より六国史一部，硯箱一個を賞せられる）
明治20年3月　宿院尋常小学校長（現職）に任ぜられる
明治21年1月　堺女学校長を兼務
・賞与の特典をしばしば蒙る
・図書検定委員，試験委員，学務委員などに推撰される

20 柴田孟教　天保9年生まれ
滋賀県　尋常小学校訓導

少より　鹽谷甲藏の塾に遊び，漢学を修め，経史に渉猟す
明治6年　大津町打出濱学校に奉職
伝習所事務を兼勤する
明治17年1月　（文部省より六国史一部，硯箱一個を下付される）
明治19年3月　（滋賀郡）打出濱学校三等訓導に任ぜられる
その後　簡易科大津第一小学高等科，大津小学同尋常科等の訓導に
明治21年4月　（滋賀郡）第三学区簡易科（大津第一松本東浦藤尾）小学校長に
明治25年5月　（大日本教育会長より銀製会章を贈与される）
明治25年6月　（滋賀郡）大津尋常高等小学校訓導（現職）に任ぜられる
私立高等女学校講師を嘱託される
「温順」「懇篤」

21 深井　譲　静岡県士族　天保8年生まれ
静岡県　尋常高等小学校長

明治元年　静岡藩学校五等教授となる
明治4年　同校三等教授となる
明治6年10月　（富士郡）平垣村小学校教員に任ぜられる
明治10年　加島学校長を命ぜられる
明治15年　（高等小学科教員免許状を受ける）
明治17年9月　（文部省より六国史一部，硯箱一個を付与される）
明治24年　加島尋常小学校長となる
明治25年5月　加島尋常高等小学校長（現職）に任ぜられる（月俸25円）
明治27年11月　（文部省より普通免許状を下付される）

22 川村　寛　三重県士族　嘉永6年生まれ
三重県　尋常高等小学校長

文久元年正月　藩校に入り，漢学を修め，英語算数を学ぶ
明治元年2月　津藩養正寮句読助教となる
尋で　漢学一等副教師となる
明治6年　小学少助教に任ぜられる
明治8年7月　（三重県師範学校より小学一等免許状を授与される）
明治9年　師範学校八等訓導に補される
尋で　安濃津養正高等小学訓導に任ぜられる
明治13年　同校校長を命ぜられる
県会議員に推撰される
明治15年2月　養正学校長になる
明治15年11月　（中等師範学科卒業証書，高等小学教員免許状を授与される）
明治20年3月　安濃津養正高等小学校長に任ぜられる
安濃津尋常小学校長を兼任
津市教育会長に当選する
明治21年5月　（文部大臣より普通免許状を授与される）
明治23年5月　私費により養正学舎を設置して小学卒業女子に普通学科を教授
本職時間外に舎務を担当
明治25年10月　津市養正尋常小学校長に任ぜられる
同尋常小学校長を兼任（月俸35円）

明治26年４月　三重私立女学校と合併して，私立津市女学校・幼稚園と改称し，校長兼園長となる
「学力優等」「授業熟練」「品行端正」

23 大島一雄　岡山県士族　安政７年生まれ
滋賀県　尋常高等小学校長

少より　藩校に入り，漢学書類を学び，弓場鎗剣の術を習う
明治８年　官立東京師範学校に遊学
明治10年　同校（高等師範学科）卒業
之より先　軍籍に身を入れる
明治10年10月　滋賀県開達学校三等訓導に任ぜられる
明治16年　同校校長に任ぜられる
明治17年　（文部省より康熙字典二部，硯箱一個を付与される）
明治19年　大津小学校長となる，二等訓導に昇進
明治20年３月　（蒲生郡）第一学区高等科八幡小学校長に転任（月俸25円）
明治24年６月　（普通免許状を取得）
明治25年12月　八幡尋常高等小学校長（現職）となる
・公共的事業，慈善的事業に金円を投じ，木杯彰状等を数多く得る

24 渋谷栄造　広島県　嘉永４年生まれ
広島県　高等小学校長

明治６年　尾道玉振舘教師となる
明治９年６月　広島師範学校を卒業
明治10年　広島県三等訓導を申付けられる
明治14年　尾道東小学校に奉職，西小学校を兼務
明治16年６月　同校校長心得となる
明治16年12月　（文部省より，玉篇一部，硯箱一個を賞与される）
明治18年４月　挙げられて同校校長となる
明治20年８月　広島県教諭に任ぜられ，尾道東小学，西小学，北小学の三校の長を兼任
明治22年５月　尾道高等小学校長（現職）に任ぜれられる
同尋常小学校長を兼任（月俸25円）
明治28年６月　尾道簡易商業学校長を兼任
明治30年１月　（月俸30円に）
・品行方正，生徒に懇切，父兄の信用篤し
・公共事業のため金円を寄付し，しばしば賞を得る

25 羽山八百藏　鳥取県　嘉永６年生まれ
鳥取県　高等小学校長

明治７年　鳥取県小学教員伝習所に入る（経史を修める）
卒業後，車尾学校仮校長を申付けられる
明治13年　明道小学校に転勤
明治15年11月　（小学校高等科教員学力検定試験に合格）
明治16年　同校校長に推挙される
明治16年　（文部省より六国史一部，硯箱一個を下与される）
明治17年４月　鳥取県師範学校附属小学校教員講習所に入る
卒業後，汗入会見両郡小学教員教授法伝習所講師を嘱せられる
明治20年　（会見郡）第一学区高等小学校長に任ぜられる（三等俸支給）
明治21年４月　角盤高等小学校長に転任
明治23年　義方尋常小学校長を兼任
明治24年　兼務を解かれる
更に　角盤高等小学校長に任ぜられる（三級上俸，月俸26円支給）
明治24年　（文部省より普通免許状を受領する）
明治24年４月　（大日本教育会長より銀製会章を贈与される）

26 足足利庸　備中國　嘉永６年生まれ
兵庫県　尋常高等小学校長

幼時　旧高梁藩有終舘に於て漢籍詩文を研究，略経史に渉る
明治８年10月　（官立東京師範学校において小学師範学科卒業証書を得る）
三等訓導を拝命，同県師範学校在勤を命ぜられる
明治９年　（磐梨郡）巡回訓導より（上房郡）巡回訓導に転任
巡回訓導廃されて，兵庫県（神戸区）花隈小学校教員となる
明治17年　神戸小学校長に挙げられる（月俸25円）
明治23年２月　（文部省より普通免許状を下付される）
明治23年４月　神戸市神戸尋常高等小学校長を

拝する（月俸30円）
のち　（月俸40円に増俸）

27 野村成泰　佐賀県　安政２年生まれ
沖縄県　尋常小学校長

少より　専ら漢学を修める
明治８年　佐賀県小学校教員講習所に入学
下等小学科授業免許状を受領
七級訓導となり，詫田小学校に在勤
明治13年11月　沖縄県巡査（首里警察署美里分署詰）となる
明治14年３月　沖縄県師範学校雇教員になる
明治14年４月　中頭小学校教員に任ぜられる
与那城，興勝等の小学校訓導となる
明治24年６月　中頭高等小学校教員に任ぜられる（月俸20円）
明治25年　中頭地方美越尋常小学校長（現職）となる
明治29年10月　（中頭教育会より硯箱一個を贈られその功績を表彰される）
現今　（月俸25円）

28 山本宗平　富山県　天保12年生まれ
富山県　尋常小学校訓導

明治７年　（下等小学教授免許状を受ける）
四等訓蒙に補せられる
第十三番中学区内福光学校在勤を命ぜられる
明治13年　（学資として金54円寄付により木杯を下賜される）
明治16年　（砺波郡）立本小学校五等訓導に任ぜられる
尋て　四等訓導に進む
（小学中等科免許状を受領する）
明治17年３月　（文部省より康熙字典一部硯箱一個を賜る）
明治21年４月　富山県（砺波郡）立本小学校訓導兼福光小学校長
学制改革に際し，立本尋常小学校訓導に任ぜられる
明治28年３月　（地方免許状を受領する）
「温厚」

29 細見　保　福岡県　安政５年生まれ
福岡県　高等小学校長

明治10年４月　官立長崎師範学校（小学師範学科）を卒業
福岡県立久留米師範学校訓導に任ぜられる
明治12年　福岡県立久留米中学校五等教授に転任
12月　鹿児島県（諸県郡）大崎小学校一等訓導となる
明治16年　（文部省より康熙字典一部，硯箱一個の賞与を受ける）
明治17年５月　福岡県（竹野郡）田主丸小学校一等訓導となる
明治20年９月　福岡県（田川郡）香春高等小学校長に転じる
福岡県（粕屋郡）大川高等小学校長
福岡県（宗像郡）東郷高等小学校長
明治22年11月　（福岡県より地方免許状を受ける）
明治23年７月　（文部省より普通免許状を受領する）
明治25年７月　久留米高等小学校に校長（現職）として復任
現今　久留米高等女学校長を兼務
「職務黽勉」「温良恭謙」「学識経験共に秀」
「公私の教育的事業に熱心」
・しばしば公共事業のために金円を投じ，木杯賞状を賞与される

30 綾田桃三　香川県　嘉永５年生まれ
香川県　尋常小学校長

文久２年正月　旧高松藩黄講道舘に入り，専ら和学漢学を修める
明治３年10月　東京大学南校に入る
同校所定の学科を修業する
のち　徳島共立学舎に入る
更に　英語数学を研究する
明治５年８月　下等助教に任ぜられる
次で　小学三等助教より一等試補に進む
咲花小学校一等授業申付けられる
明治９年１月　官立大阪師範学校に入学
明治11年１月　同校（小学師範学科）卒業証書を受ける
明治11年２月　岐阜県師範学校在勤を命ぜられる
明治15年２月　愛媛県小学二等訓導に任ぜられ

る
（小豆郡）講習所在勤を申付けられる
次で　一等訓導に進む
明治18年５月　（愛媛県師範学校にて功績卒業証書を受ける）
愛媛県師範学校一等訓導に任ぜられる
更に　小学督業となる
督業廃されると，（香川郡）高松五番町尋常小学校長兼鶴屋町尋常小学校長に任ぜられる
明治25年　（地方免許状を受ける）
４月　高松市四番町尋常小学校校長に任ぜられる
高松市学務委員に選定される
（四等下級俸を給与される）
明治27年　（文部大臣より小学校教員普通免許状を授与される）
・小学授業生学力試験委員となる
・小学校教科用図書選定委員となる

31 榎本利通　安政２年生まれ
岐阜県　尋常小学校長

明治７年　岐阜県師範研習学校（小学師範学科）卒業
訓導試補となる
明治10年５月　岐阜県師範学校に入り，改正授業法を伝習する
明治11年９月　一級訓導補を申付けられる
師範学校附属小学校，小熊学校在勤を命ぜられる
明治15年４月　皐々学校長心得を命ぜられる
明治16年　（文部省より玉篇一部，硯箱一個を付与される）
明治18年　笠松学校校長となる
明治20年５月　笠松高等小学校長に任ぜられる
笠松尋常小学校長を兼任
明治27年７月　岐阜市岐阜尋常小学校長（現職）に栄転
「篤実」「勤直職務に熱心」
・しばしば図書審査委員となる
・小学校教員試験委員となる

32 間宮陳忠　安政５年生まれ
和歌山県　男子高等小学校長

明治10年３月　和歌山師範学校（小学師範学科）卒業
小学五等教員となる
師範学校在勤を申付けられる
明治13年　和歌山区有街小学校在勤を申付けられる
明治15年　同校校長に挙げられる
明治16年　雄小学校長に転じる
明治16年11月　（文部省より康熙字典一部，硯箱一個を下付される）
明治17年　（高等師範学科卒業証書を得る）
明治20年　和歌山高等小学校訓導となる
尋で　同校校長に進む
明治25年７月　和歌山男子高等小学校長に任ぜられる
・しばしば図書審査委員となる
・試験委員となる

33 原田周之　徳島県士族　安政２年生まれ
徳島県　高等小学校長

少より　藩黄長久舘に遊び，漢学を修業する
明治９年　名東県師範学校（小学師範学科）を卒業
三等試補となり，優屬小学校勤務を命じられる
明治15年　新町小学校長（准十三等官）に任ぜられる
明治17年　（徳島師範学校より高等師範学科卒業証書を得る）
明治19年10月　（名東郡）佐古町尋常小学校兼（名東郡）尋常小学校三等訓導になる
明治29年　（文部省より普通免許状を下付される）
明治30年　徳島市徳島高等小学校長（現職）兼寺島尋常小学校長に任ぜられる（月俸25円）

34 小原恒貞　石川県　嘉永２年生まれ
石川県　尋常高等小学校長

明治７年　小学校訓蒙を申付けられる
分課宇出津，田丸町，各小学校に転勤
明治８年　石川県師範学校（小学師範学科）卒業証書を受ける
五等訓導を申付けられ，分課寺町小学校に奉職する
尋で　野町，育英等の各小学校に転任
明治14年９月　金沢高等小学校教員となる

明治16年２月　石川郡松住小学校長兼明六小学校長に任ぜられる
明治18年　薫陶小学校長兼清紫小学校長，金石小学校長，長浜小学校長に
明治18年７月　さらに御鹽藏小学校長兼金石下本町小学校長に転じる
明治22年　（石川県より第一等教育功績証書を授与される）
明治25年４月　上金石高等小学校長兼同尋常小学校長に挙げられる
・しばしば小学校教員検定委員に選ばれる

35 新渡戸仙岳　岩手県　安政５年生まれ
岩手県　高等小学校長

初め　盛岡学校仮教師助手
尋で　中野，岩泉等の学校に転勤
明治15年９月　（小学初等科教員免許状を受ける）
（高等科教員免許状を得る）
明治16年５月　（北九戸郡）軽米小学校三等訓導に任ぜられる（月俸20円）
明治17年　公立気仙教員予備学校二等助教諭となる
明治18年　一等助教諭になり，（気仙郡）田茂山小学校長を兼務
明治20年４月　（同郡）高等小学校長兼（気仙郡）小学督業となる（月俸25円）
明治22年　盛岡高等小学校長（現職）に任ぜられる
明治25年　（文部省より普通免許状を下付される）
明治30年　盛岡高等女学校長事務取扱を兼務

36 三輪唯五郎　茨城県　慶応２年生まれ
群馬県　尋常高等小学校長

明治13年１月　栃木県中学校に入学
明治15年12月　同校卒業
明治16年４月　栃木県師範学校に入学
明治17年２月　同校（高等師範学科）卒業
栃木県真岡小学校三等訓導に任ぜられる
憤慨して職を辞す（29歳）
愛知県（額田郡）高等小学校訓導となる
同郡教員講習会の講師となる
明治22年12月　栃木県（安蘇郡）赤見小学校長に任ぜられる
明治24年６月　小中，石塚，出流原の各尋常小学校を兼任
明治27年２月　（普通免許状を得る）
明治29年12月　群馬県碓氷郡秋間尋常高等小学校長（月俸30円）に任ぜられる
・金円物品を下賜されること前後十数回

37 渡邊八十郎　大分県士族　天保13年生まれ
大分県　尋常小学校長

安政２年　中津藩立進修文武舘に入り，漢学を修める
明治４年　東京三田慶応義塾に於いて，洋算を習う
明治７年　中津諸町小学校助教授試補を申付けられる
養成校監事兼教授に任ぜられる
明治14年４月　下毛郡小学校試業委員担任を命ぜられる（手当20円）
明治15年７月　（大分県師範学校より，高等師範学科卒業証書を受領する）
明治16年　（文部省より康熙字典一部，硯箱一個を付与される）
明治20年４月　（下毛郡）殿町尋常小学校訓導に任ぜられる
同校校長に挙げられる
明治24年８月　（文部省より普通免許状を受領する）
明治24年　（大日本教育会より功績章を受領する）
明治30年７月　（下毛郡）中津高等小学校長となる
（下毛郡）殿町尋常小学校長（現職）を兼務

38 前川兵七　奈良県　嘉永６年生まれ
奈良県　尋常高等小学校長

明治８年10月　奈良県寧楽師範学校入学
明治８年12月　第三等乙科及第の証書を受け，小学八等助教を申付けられる
明治９年７月　堺県小学四等助教を申付けられる
明治12年　（堺県大書記官巡校に際し，金円の賞を受ける）
明治16年　（文部省より康熙字典一部，硯箱一個を付与される）
明治18年10月　（小学中等科教員免許状を得る）
大阪府五等訓導に任ぜられる
明治20年10月　（大阪府より小学校教員免許状

を得る）
（奈良県小学校教員免許状を得る）
明治20年12月　萩原高等小学校訓導兼萩原尋常小学校長（現職）に任ぜられる
明治26年７月　奈良県（宇陀部）北部教育会長に当選する
・図書審査委員，教育会委員など歴任

39 金子長齊　愛媛県　天保12年生まれ
愛媛県　尋常高等小学校長

明治７年１月　愛媛県小学五等教官を命ぜられ，（久米郡）第一小学校に勤務
明治９年11月　（下浮穴郡）河東小学校へ転勤
第四連区小学校教員研究会頭に当選する
明治12年　（下浮穴郡）小学監視専務を申付けられる
爾来　（上浮穴郡）役所学務係兼小学教員講習所教員となる
明治16年７月　愛媛県師範学校二等訓導兼書記となる
尋で　愛媛県第一中学校助教諭試補を兼務
明治19年２月　同校二等助教諭に任ぜられる
（和気郡）三津小学校長となる
（和気郡）小学教員教務研究会頭に当選する
明治23年　（文部省より小学校教員普通免許状を受領する）
明治26年５月　（和気郡）三津尋常高等小学校長（現職）となる

40 岩井健次郎　福井県
福井県　尋常小学校長

明治４年　小濱藩順造舘に入る
赤坂小学校訓導に任ぜられる
明治９年　滋賀県大津師範学校に入る
明治11年９月　（御臨幸の際，学力優等のために金円を恩賜される）
明治12年　高等師範学科を卒業し，一等証書を交付される
（栗田郡）小学巡回教員を申付けられる
明治15年　（敦賀郡）就将小学校在勤を命ぜられる
明治19年　同校校長に推挙される
明治25年５月　（普通免許状を受領する）
明治25年７月　敦賀尋常高等小学校長（現職）に任ぜられる
・学務委員，図書審査員などを歴任

41 渡邊　傳　栃木県　弘化２年生まれ
栃木県　尋常高等小学校長

少より　漢学を習い，欧文翻訳および兵書，算数を修める
元治２年７月　黒羽藩大小姓に出仕する
慶応３年４月　砲術教授方を命ぜられる
同藩器械司，作新舘，欧文翻訳書六等教官等に任ぜられる
明治５年　学区取締試補となる
明治７年　小学校少教頭となる
小学権中授業に進む
明治12年　栃木県小学三等訓導に任ぜられる
明治13年４月　（栃木県師範学校に於いて小学教員証明書を受領する）
明治18年12月　（文部省より康熙字典一部，硯箱一個を賞せられる）
明治20年　（地方免許状を得る）
明治20年５月　（那須郡）黒羽尋常小学校々長になる
明治22年３月　（那須郡）第二高等小学校長心得に任ぜられる
明治26年３月　栃木県（那須郡）尋常高等小学校長（現職）に任ぜられる
明治27年　（普通免許状を受ける）

42 下生成安　安政５年生まれ
茨城県　高等小学校長

明治７年３月　授業生となる
明治12年11月　茨城県小学師範学科を卒業
小学四等訓導に任ぜられる
尋で　師範学校雇教師となる
明治16年２月　木瀧小学校訓導となる
明治16年７月　挙げられて同校校長となる
明治16年　（文部省より康熙字典一部，硯箱一個を賞せられる）
明治20年11月　鹿島高等小学校長に転任
明治21年　（地方免許状を受領する）
明治21年１月　鹿島第一高等小学校長に任ぜられる
明治25年９月　（鹿島郡）鹿島町外四ヶ村組合高等小学校長に任ぜられる
明治26年１月　（普通免許状を得る）
・公共的事業のために金円を投じ，しばしば

賞を受ける

43 大島義著　　嘉永２年生まれ
神奈川県　尋常高等小学校長

少より　専ら漢学を修める
明治７年　旧小田原師範学校に入学
卒業後，第一大区小学校教員となる
明治15年　六等訓導に任ぜられる
明治15年９月　（小学中等科教員免許状を得る）
明治16年　五等訓導に進む
（足柄上郡）比奈窪学校長に任ぜられる
明治16年６月　（小学校本科地方免許状を受ける）
（足柄上郡）尋常高等中村小学校訓導に任ぜられる
同校校長（現職）を兼務
明治16年　（文部省より四等賞を付与される）

44 小林廉作　　嘉永元年生まれ
岐阜県　尋常高等小学校長

明治５年　中津川村興風小学校教員となる
明治７年　岐阜県師範研修学校訓導補助を申付けられる
明治７年６月　（小学師範学科第一等卒業証書を受ける）
興風義校訓導試補を申付けられる
明治10年　岐阜県師範学校に入る
明治11年　（小学師範学科第一等卒業証書を受ける）
明治11年　五等，四等を経て三等訓導に至る
明治16年　（文部省より玉篇一部，硯箱一個を付与される）
明治17年　興風学校長に挙げられる
明治18年　（華陽学校師範部より考績卒業証書を付与される）
講習取締を申付けられる
明治19年　中津川高等小学校校長（現職）に任ぜられる（月俸23円）
明治26年　（文部省より普通免許状を下付される）

「謹厳」
・しばしば賞与を蒙る
・公共事業のために金を投じ，木杯賞状等をしばしば下賜される

45 水野速瀬　　新潟県士族　嘉永３年生まれ
新潟県　高等小学校長

幼より　武技を修め，和漢の学を修める
明治４年　藩校修道館入り，律令を学ぶ
明治７年８月　高田呉服町校教師を命ぜられる
明治８年５月　糸魚川教師を命ぜられる
明治11年４月　（県立新潟学校において小学師範学科卒業証書を受領する）
今町，岡嶋等の各小学校の訓導に任ぜられる
明治16年11月　（文部省より三等賞を下賜される）
明治19年１月　小学校教員講習会長に推薦される
明治20年５月　高等科高田小学校訓導となる
明治21年　校長に挙げられる（月俸20円）
明治25年３月　（高等師範学科考績卒業証書を受ける）
明治25年12月　中頚城郡組合立高田高等小学校長（現職）に推される（23円）

46 中村豊年　　島根県士族　安政２年生まれ
島根県　高等小学校長

明治８年７月　旧濱田県小学伝習所に入る
同校（小学師範学科）を卒業
第一大区日脚小学校訓導在勤を申付けられる
明治18年２月　（那賀郡）第二十一番小学区長浜小学校三等訓導に任ぜられる
明治19年　（文部省より玉篇一部，硯箱一個を賞せられる）
明治22年　小学督業心得兼務を申付けられる
明治23年１月　（島根県より教育功蹟状を受ける）
明治25年６月　（那賀郡）浜田町高等小学校校長（現職）兼同尋常小学校校長に任ぜられる
・しばしば，教員検定試験委員となる

47 中村久武　　岡山県士族　嘉永２年生まれ
岡山県　高等小学校長

少き時より　専ら漢学を修め，三島中洲の門に入る
のち　挙げられて舎長となり，詩文方代講を司る

明治元年　高梁藩学校句読師を申付けられる
明治８年　小田県師範学校に入学
同校（小学師範学科）を卒業
確摯小学校二等訓導に任ぜられる
明治16年　（小学高等師範学科卒業証を得る）
明治16年３月　（文部省より三等賞を付与される）
明治21年４月　（川上郡）高等小学校在勤を命ぜられる
明治23年　同校校長（現職）を兼務
・公共事業に金円を投じ，しばしば褒状木杯等を賞与される

48 森井孝次郎　嘉永４年生まれ
愛媛県　尋常高等小学校長

明治４年11月　旧大洲県学校副司読を申付けられる
明治６年２月　旧神山県小学等外教官一等出仕を申付けられる
明治８年12月　愛媛県擇善学校小学一等訓導に任ぜられる
明治９年　愛媛県師範学校四等訓導に補せられる
明治12年　（喜多郡）大洲町肱南小学校四等訓導に転任
明治16年　同校校長に推挙される
明治18年７月　ふたたび愛媛県師範学校一等訓導に任ぜられる
明治19年　大洲小学校長となる
明治21年４月　大洲高等小学校長を兼務
明治25年　大洲尋常高等小学校長（現職）となる（五級俸を支給される）

49 信國顕治　山口県　安政５年生まれ
山口県　尋常高等小学校長

少より　老儒に就て和漢学数理の学を修める
明治10年　山口県師範学科を卒業
山口県第二十大区巡廻訓導を申付けられる
川島，堀内，北斗，椿東，各小学校訓導となる
明治17年10月　（小学校中等師範学科卒業証書を授与される）
明治18年６月　椿東小学校長心得に任ぜられる
明治20年４月　椿東尋常小学校長に任ぜられる
松本，小畑，中之倉，霧口，鶴江，越ヶ濱小学簡易科訓導を兼任
明治26年２月　椿東尋常高等小学校長に挙げられる
明治30年12月　（文部省より普通免許状を受ける）
・各郡講習会講師に７～８回聘せられる
・職務勉励慰労金をしばしば授与する

50 山田良次郎　能義郡士族　安政６年生まれ
島根県　高等小学校長

明治７年　上山佐小学校三等助教となる
奥田原小学校二等助教となる
明治８年10月　県立島根県教員伝習校に入学
尋で　同校（小学師範学科）を卒業
加宮小学教師を申付けられる
明治13年７月　給下小学校九等訓導を命ぜられる
明治16年２月　三刀屋小学校長に挙げられる
明治17年　（文部省より康熙字典一部，硯箱一個を下賜される）
明治17年10月　（無試験で小学高等科免許状を受ける）
明治19年２月　（飯石郡）久和小学校長に転任
尋で　掛合高等小学校訓導に転任
明治23年　同校校長を兼務
明治25年　三刀屋尋常高等小学校長に任ぜられる
明治30年４月　（海士郡）海士尋常高等小学校長に挙げられる（月俸25円）

51 加治　濟　天保９年生まれ
茨城県　尋常小学校長

明治７年11月　茨城県小学師範学科下等科を卒業
（那珂郡）田谷小学校に在勤
明治８年　小学師範学科を卒業
額田，水門，太田，青柳，各小学校訓導となる
明治16年８月　水門小学校長に挙げられる
明治16年11月　（文部省より康熙字典一部，硯箱一個を付与される）
明治19年10月　湊小学校二等訓導に
明治26年２月　同校長に任ぜられる

52 有村貞隆　　安政６年生まれ
鹿児島県　小学校長

明治９年５月　鹿児島師範学校小学下等方法を卒業
五等准訓導を申付けられる
明治14年　小学師範学科を卒業
啓蒙小学訓導を命ぜられる
明治20年　（大隅郡）櫻洲尋常小学校訓導となる
明治21年６月　同校校長に挙げられる
明治26年　（小学校本科免許状を得る）
明治29年　櫻洲高等小学校長を兼務

52' 菊地祐善　　宮城県　天保７年生まれ
宮城県　尋常高等小学校長

明治７年８月　官立宮城師範学校を卒業
四等訓導に任ぜられ，丸森小学校に勤務する
尋て　十三連合各小学校訓導を兼務
明治15年　（宮城師範学校にて高等小学師範学科卒業証書を受ける）
丸森小学校長に任ぜられる
明治16年11月　（文部省より三等賞を賜与される）
爾来　馬場，谷地，涌谷の訓導となる
明治20年　ふたたび丸森尋常高等小学校長（現職）に任ぜられる
筆甫尋常小学校長に任ぜられる
明治21年　兼務を解かれる
明治25年３月　（無期免許状を受領し，四級上俸を支給される）
明治28年６月　（宮城県教育会総理，従四位勲四等勝間田稔氏の贈与）

53 大川謙治　　佐賀県　安政元年生まれ
佐賀県　高等小学校長

明治９年　長崎師範学校を卒業
四等訓導に補せられる
福山小学校長に任ぜられる（月俸20円）
明治17年６月　（高等小学師範学科卒業証書を授与される）
（東松浦郡）第四番学区上等公立唐津小学校三等訓導に任ぜられる
尋で　同校校長に挙げられる
明治21年12月　高等唐津小学校長に任ぜられ，同尋常小学校長を兼務
明治26年12月　（文部省より普通免許状を受領）
明治30年７月　（月俸22円を給与される）

54 只見秀質　　嘉永５年生まれ
埼玉県　尋常高等小学校長

少より　漢学をおさめる
慶応２年　古河藩漢学校に遊び，広く経史に渉猟する，傍ら書法を学ぶ
明治３年７月　古河藩洋学校に入り，英語算数を学ぶ
明治６年３月　第十二番中学区第三十六番小学校教授となる
明治７年　准權中掌教に補される
明治９年４月　栗橋学校五等訓導を嘱任される
第八連校督業を兼務
明治14年２月　小学校高等科教員免許状を受ける
明治17年４月　栗橋学校長に任ぜられる
三等訓導を兼務する
明治19年12月　北葛飾中葛飾両郡第一連校小学校教員講習会頭になる
明治20年９月　埼玉県小学校校長に任ぜられる
明治25年11月　（北葛飾郡）栗橋尋常高等小学校長に任ぜられる
明治26年　（普通免許状を受領する）

55 峯　信一　　千葉県　安政２年生まれ
千葉県　尋常高等小学校長

明治11年11月　千葉県師範学校（少学師範学科）を卒業
小学五等訓導に任ぜられ，蓑輪学校在勤を命ぜられる
明治16年９月　東明小学校五等訓導に任ぜられる
尋で　四等訓導に進む
明治18年７月　（千葉県師範学校に於いて功績卒業証書を受領する）
北条小学校三等訓導に任ぜられる
明治22年　同校校長となる
明治26年　（普通免許状を受ける）
下佐久間尋常高等小学校長（現職）に任ぜられる

「温厚篤実」
・時に文部省より賞品を授与される

56 馬場桑三郎　愛知県　安政４年生まれ
名古屋市　尋常小学校長

少より　和漢の学に通じ，兼ねて算数を善くする
明治16年　名古屋法律学校に入り，法律経済二科を卒業
明治20年７月　愛知県師範学校講習会を卒業（中高等小学科免許状を得る）
名古屋高等小学校訓導兼菅原学校長となる
明治24年４月　（普通免許状を下附される）
明治26年４月　名古屋市菅原尋常小学校長に任ぜられる
「温良恭倹」
・前後数回，賞を受ける

57 宗次重行　高知県　嘉永３年生まれ
高知県　尋常小学校長

明治８年８月　安芸郡和食止学舎准二等助教となる
明治15年２月　（初等科教員免許状を受ける）
安芸郡馬ノ上小学校七等訓導拝命
尋で　（中等科教員免許状を受ける）
五等訓導に進む
明治16年　（文部省より康熙字典一部，硯箱一個を付与される）
明治21年12月　和食尋常小学校訓導となり，白髪簡易小学校訓導を兼務
明治26年１月　（小学校教員免許状を受ける）
尋で　和食尋常小学校校長（現職）に挙げられる
「校務勉励」

58 宮崎　久　東砺波郡　弘化４年生まれ
富山県　尋常小学校長

明治７年　（新川県講習所に入り，下等小学教授免許状を得る）
中授業生に補せられる
射水郡育英小学校在勤を申付けられる
明治10年　一級訓導に進み，射新小学校在勤を申付けられる
明治15年　（初等科教員免許状を得る）
明治18年８月　（中等免許状を得る）
爾来　怡柔，啓迪，愛日，各学校訓導に転じる
明治21年　（射水郡）愛日小学校長兼横田小学校長になる
明治25年10月　高岡市尚徳尋常小学校長（現職）に任ぜられる
「励精恬勤」「校務克く挙り」
・しばしば賞状賞金等を受領する

59 木津執藏　東京　安政６年生まれ
愛知県　尋常小学校

明治７年　（養成学校において上等小学科卒業証書を受ける）
（額田郡大草村）和蓑小学校訓導に任ぜられる
明治９年12月　岡崎根石小学校に転じる
明治16年　（文部省より玉篇一部，硯箱一部を下付される）
明治20年４月　投小学校校長に任ぜられる
尋で　（同郡）連尺小学校長となる
（学科卒業証書を得る）
明治25年９月　投小学校校長に復任する
11月　（高等師範学科卒業証書を得る）
明治28年４月　（小学校教員普通免許状を受領する）

60 西田辰正　富山県　天保11年生まれ
富山県　高等小学校長

富山藩広徳藩訓導富山薬学校御横目となる
明治７年11月　（小学教授免許状を下付される）
明治９年　第十大区校務兼監督を申付けられる
明治12年12月　上新川郡書記に任ぜられる
明治15年　（木杯を授けられる）
明治16年11月　富山市高等小学校二等訓導拝命
明治20年８月　上新川郡下，岩瀬校外４校の小学校長を申付けられる
明治21年４月　富山市立病院監事となる
明治23年４月　富山市高等小学校長に再任される
明治29年３月　（小学校図書審査委員を命ぜられる）
・金円に物品に下賜されること，枚挙に暇がない

61 三吉　艾　山口県　嘉永６年生まれ
京都府　高等小学校長

明治10年３月　京都府にて小学教授科卒業
下京23校訓導となる

明治10年４月　京都府学務課出仕兼女学校助教授拝命
明治15年10月　京都府女学校三等教諭に任ぜられる
明治16年７月　東京師範学校の師範学科取調を完了する
体操伝習所の体操術を終了する
音楽取調掛の伝習を受ける
明治17年１月　学務課教科掛となる
師範学校の教育学科を教授する
明治18年１月　七等属に任ぜられる
明治18年２月　督学掛（のちの地方視学）になる
その後　判任六等となる
明治23年３月　判任五等となる
明治23年７月　（小学校教員地方無期免許状を受領）
明治24年５月　（普通免許状を受領する）
明治29年１月　兵庫県属（四級俸）となる
明治30年１月　（三級俸を給せられる）
明治30年１月　京都市下京高等小学校長（現職）となる（現俸50円）

「誠実熱心」「雄弁沈黙」「意志確乎」
・小学校令実施方案起草委員となる
・教員甲種検定委員となる
・高等女学校増築費へ50円寄付して木杯を賞与される
・征清軍の犒軍事務に盡瘁して赤十字社より銀杯を贈られる
・公同事業に献金して褒詞を７回受ける

62 南　和　大分県士族　嘉永２年生まれ
大分県　尋常小学校訓導兼校長

幼にして　漢書を学ぶ
明治２年　藩立集成館に入って大いに漢籍を研究する
明治７年６月　官立大阪師範学校に遊ぶ
明治９年　同校卒業
滋賀県三等訓導に任じ時習学校在勤を命ぜられる
明治10年　大分県三等訓導となり，第四大区十二小学区臼杵学校在勤を命ぜられる
明治15年　同校校長兼二等訓導となる
明治24年８月　（文部省より普通免許状を得る）
明治25年５月　（大日本教育会より教育功績章を贈与される）
・公共事業に金を投じて賞状賞品を得ること数回

63 箕村喜佐太郎　徳島県士族　嘉永５年生まれ　徳島県　尋常小学校訓導兼校長

初め　専ら漢籍に志し，
のち　数学を兼修する
明治８年　名東県（佐古町）作新小学校二等授業を申付けられる
明治９年３月　一等授業に進む
明治12年７月　准訓導となる
明治13年７月　（徳島県より公立小学校教員保認状を受ける）
明治13年８月　佐古町小学校六等訓導に任ぜられる
明治18年２月　校長を兼ねる
明治19年10月　高崎尋常小学校勤務となる
明治21年２月　新町尋常小学校勤務を命ぜられ，校長を兼ねる
明治28年４月　（文部省より普通免許状を受ける）
明治30年８月　徳島市佐古尋常小学校訓導兼校長（現職）に任ぜられる

「寛良」「勤勉」

64 鶴田　保　佐賀県　嘉永５年生まれ
佐賀県　尋常小学校訓導兼校長

明治９年　（佐賀郡）飯盛小学校教員となる
明治11年１月　（佐賀郡）早津栄尋常小学校（現任校）に就職

65 山本　茂
山形県　尋常小学校訓導兼校長

明治13年　教育界に入る
明治20年　（西田川郡）濱中尋常小学校に奉職
明治25年　（西田川郡）朝暘学校に転任
明治27年　（西田川郡）濱中尋常小学校（現任校）に再任
明治30年　子守学級の開設を主唱
明治32年　（山形県連合教育会より金50円を贈られる）

「熱心」「親切」「懇篤」
・夜学会を起こして青年を教育
・父兄を勧誘して就学を督責

66 木原四郎　鹿児島県士族　嘉永３年生まれ
沖縄県　尋常小学校訓導

明治12年　鹿児島師範学校において下等小学授業法を伝習
明治14年　沖縄師範学校雇教員となる
のち　首里東小学校教員に任ぜられる
明治15年３月　羽地小学校に転じる
明治21年６月　屋我地尋常小学校訓導に任ぜられる
明治26年５月　國頭尋常小学校訓導（現職）に任ぜられる
分校邊戸尋常小学校勤務を命ぜられる

67 矢勝安定　熊本県　安政３年生まれ
鹿児島県　尋常小学校訓導兼校長

明治10年４月　官立長崎師範学校を卒業
首座訓導心得として師範分校禁野学校派出を申付けられる
明治10年８月　四等訓導となる
明治11年４月　京都府四等訓導に任ぜられ，上京，小川学校に奉職
明治11年10月　神奈川県四等訓導として横浜区太田学校在勤となる
明治12年５月　鹿児島県高尾，横山，佐志小学校に歴任
明治15年12月　依願退職
明治15年12月　熊本県八代葦北（十三等相当）郡書記（教育部担当）に任ぜられる
明治16年10月　阿蘇（十二等相当）郡書記（教育担当）となる
明治17年12月　庶務掛長を申付けられる
明治19年９月　判任九等に任ぜられる
明治20年１月　第二課長となる
明治20年２月　第一課長となる
明治24年１月　依願免官
明治24年５月　熊本県高等葦北南部小学校長兼訓導に任ぜられる（月俸15円）
明治25年３月　（月俸17円に昇給）
明治25年12月　熊本県（葦北郡）水俣高等小学校訓導兼校長に任ぜられる
明治26年　（文部省より普通免許状を得る）
明治28年５月　水俣農業補習学校訓導を兼任
明治30年４月　（20円に増俸される）
明治31年２月　鹿児島県（出水郡）出水尋常小学校訓導兼校長（現職）に転じる
（月俸35円を給される）
・公共事業に金円を投じて数回賞を得る
・職務格別勉励の廉を以て金品の賜与を数回受ける

68 溝口忠友　佐賀県士族　天保11年生まれ
佐賀県　尋常小学校訓導兼校長

明治８年11月　東京師範学校（小学師範学科）卒業
明治９年１月　宮崎県（第27中学区）高城小学校三等訓導に任命
明治10年１月　同校　二等訓導に昇進
のち　鹿児島仮師範学校在勤を命ぜられる
明治11年１月　柁城小学校に転任
明治12年12月　同上辞職
明治13年２月　高城小学校在勤を命ぜられる
明治13年８月　日新学舎訓導となる
明治14年２月　同上依願退職
明治14年４月　長崎県鹽田小学校教員となる
明治15年12月　同上辞職（有効満期）
休養
明治16年11月　佐賀県錦浦小学校初代訓導兼校長
（成績可良を以て称せらる）
明治20年11月　高等東郷小学校訓導兼校長に昇進
明治25年９月　（杵島郡）武雄尋常小学校に転任
明治25年12月　（同郡）福治尋常小学校訓導兼校長（現職）に
明治35年５月　（文部省より普通免許状を下附せられる）

69 児玉運次　鹿児島県士族　文久２年生まれ
鹿児島県　尋常高等小学校訓導

明治10年12月　藤崎小学校教員を申付けられる
明治17年　回天小学校一等授業生となる
明治20年５月　同校校長に昇進
明治22年４月　天辰小学校長を兼任
明治24年　依願兼官を免ぜられ，専ら回天小学校に
明治30年10月　鹿児島県（薩摩郡）平佐尋常高等小学校尋常科訓導（現職）に転任

「温和」「円満」

・公共事業に金円を投じて数回恩賞を得る
・職務勉励の廉を以て賞与金を数次受ける

70 岸田吉興　　奈良県　安政元年生まれ
奈良県　尋常小学校兼高等小学校訓導

明治７年３月　（葛下郡）竹内村小学校准訓導試補一等を申付けられる
明治８年４月　小学八等助教を申付けられる
明治９年８月　（堺県より命ぜられ）高田小学五等訓導となる
明治11年５月　和州奈良学校在勤になる
明治12年１月　井戸堂小学校在勤を申付けられる
明治14年３月　（大阪府より）大和国（葛下郡）長尾小学校勤務を命ぜられる
明治15年８月　（大阪府より小学初等科教員免許状を受ける）
明治17年４月　（さらに中等科教員免許状を受ける）
　　直ちに　五等訓導に任ぜられる
明治18年７月　（葛下郡）長尾尋常小学校長に任ぜられる
明治21年６月　（葛下郡）高田高等小学校授業生を兼任
明治22年10月　（葛下郡）磐城尋常小学校長兼訓導（現職）に任ぜられる
明治26年９月　（小学校教員免許状を受ける）
明治28年　　（葛下郡）磐城高等小学校訓導を兼任

「温厚篤実」

71 金子治喜　　東京府士族　天保12年生まれ
東京市　私立尋常高等小学校設立者兼教員

安政４年正月　芳林私塾開設
明治７年　　私立小学校に変更し，その設立者兼校長となる
・私立小学校組合長となる
・東京市学務委員となる
・神田区学務委員となる

72 川島　謙　　嘉永５年生まれ
長崎県　高等小学校訓導兼校長

明治８年12月　長崎師範学校（小学師範学科）卒業
明治９年１月　宮崎県四等訓導（宮崎学校在勤）に任ぜられる
明治９年２月　第26中学区南町小学に転任
明治９年４月　第25中学区清竹小学に転任
明治10年９月　依願解任
明治11年10月　長崎県第五大学区第二中学区船津小学校訓導となる
明治12年５月　依願解任される
明治12年７月　第二中学区松嶼小学校訓導となる
明治13年10月　島原中学校訓導を嘱せられる
明治16年７月　島原中学校三等助教諭となる
明治17年３月　廃校により解任
明治18年５月　上等森岳小学校四等訓導に任ぜられる
明治19年９月　高等小学校三等訓導に昇進
明治22年　　第八高等小学校に転じる
明治26年　　島原高等小学校（現任校）訓導となる
明治30年　　同校校長を兼務

「資性温良」

73 岡本清来　　京都府士族　安政５年生まれ
京都市　高等小学校長

明治９年８月　京都府師範学校に入学
明治10年２月　（天覧の節，優等の賞として図学器械一具下賜される）
明治11年３月　同校（小学師範学科）卒業
明治11年３月　京都府上京第十八校在勤となる
明治15年12月　（上京区）出水小学校長兼三等訓導に任ぜられる
明治16年９月　（上京区）待賢小学校長兼三等訓導に任ぜられる
明治20年７月　（上京区）高等小学校訓導兼校長（現職）に任ぜられる
明治21年　　（教科用図書審査委員に命ぜられる）
明治29年６月　（月俸35円となる）

74 中村義一　　愛媛県　安政３年生まれ
横浜市　小学校長

明治10年７月　愛媛県伊予師範学校（小学師範学科）を卒業
　　伊予国（温泉郡）道後村湯月小学校に在勤
明治13年５月　連区監督を兼務
明治13年12月　（下浮穴郡）川登村千里小学校に在勤
明治15年８月　（下浮穴郡）小学連区監視専務を申付けられる
明治15年12月　伊予郡書記に任ぜられ学務に勤務

明治16年８月　（伊予郡）灘町山崎学校長となる
明治18年５月　愛媛県一等訓導巡回掛寒川三木郡派駐を申付けられる
幾程もなく　愛媛県師範学校二等助教諭兼書記に任ぜられる
而して　愛媛県師範学校一等訓導に任ぜられる
明治20年５月　小学督業となる
（小学校教科用図書審査委員となる）
明治20年９月　愛媛県三野豊田観音寺高等小学校訓導となる
明治22年８月　愛媛県（風早和気温泉久米郡）松山高等小学校訓導兼校長になる
明治29年12月　宮城県（名取郡）岩沼尋常高等小学校訓導兼校長に出向
明治30年７月　横浜尋常高等老松小学校訓導兼校長（但，一級上俸）となる
その後　横浜市平沼小学に転じる
・普通免許状を受領
・小学校令に関する事務取調委員となる

75 吉田元利　上総国　嘉永６年生まれ
北海道　尋常高等小学校訓導兼校長

漢学に通じ兼て数学を能くす
明治初年　漢学三等句読師を申付けられる
学校掛書籍掛兼務を命ぜられる
尋で　等外三等出仕となり，会所学校教員を申付けられる
変則中学教員兼務となる
のち　等外二等出仕に進み，洋算教員兼務となる
再び進んで　等外一等出仕となり，会所学校教員を申付けられる
明治９年　十五等出仕に補せられる
明治10年３月　御用掛となる
明治11年６月　小学科伝習所教員を申付けられる
明治13年11月　依願御用掛を免ぜられる
（学事に関する各地出張各学校巡回を数回命ぜられる）
明治13年11月　函館師範学校三等教諭を申付けられる
明治15年　開拓使廃止のため，函館県七等属となる
明治17年　六等属に進む
明治19年　北海道庁が置かれ，北海道属となり函館支庁在勤を申付けられる
判任官六等に叙され，札幌出張を命ぜられる
明治20年１月　帰庁（第一部教育課勤務）を命ぜられる
明治21年　判任官五等に昇進する
明治23年４月　陞叙判任官三等となる
明治24年８月　非職となり，函館区賽小学校長を兼務
明治24年11月　兼官を免ぜられ，函館区函館女学校長兼任となる
明治24年12月　依願本官を免ぜられ，函館区函館女学校訓導兼校長に任ぜられる
明治26年４月　函館区彌生小学校長を兼務
明治27年３月　函館区彌生小学校訓導兼校長に任ぜられる
明治30年　（文部省より普通免許状を受ける）
「篤実熱心」
・幾十回賞，特別勉励を受ける

76 素木岫雲　東京府平民　弘化４年生まれ

明治６年１月　豊前国（上毛郡）公立拡充小学校教員となる
明治９年５月　東京府師範学校教師となる
東京府師範学校に入学
明治11年７月　小学師範学校を卒業
明治11年８月　北海道開拓使庁御用掛となる（月俸20円）
明治11年９月　小学教科伝習所教員を申付けられる
明治13年６月　同伝習所幹事を申付けられる
明治13年11月　函館師範学校二等教諭となる（月俸25円）
明治15年５月　同校一等教諭となる（月俸30円）
明治16年２月　御用掛に転じて学務課に勤務，なお教諭を兼務
明治16年５月　兼任函館師範学校長となる
明治16年８月　（月俸40円となる）
明治19年９月　函館師範学校が廃され，北海道師範学校書記（月俸40円）に任ぜられる，なお函館分校に在りて之を統理する
明治20年４月　分校が廃され職を辞して，私立函館学校（尋常小学科変則中学

科）及び函館幼稚園を設立する
明治24年　熊本県熊本高等小学校長に任ぜられる（月俸40円）
明治25年５月　北海道札幌区創成小学校訓導兼校長に任ぜられる
爾後　女子小学校訓導兼校長，尋常小学校訓導兼校長などを兼務
「資性篤実」

77 太田　勉　山梨県士族　嘉永元年生まれ
山梨県　高等小学校訓導兼校長

明治７年６月　東京師範学校を卒業
明治７年７月　岐阜県三等訓導に任ぜられ，師範研習学校に在勤する
明治８年８月　一等訓導に昇進する
明治９年10月　山梨県師範学校に転任
明治17年８月　一等助教諭に任ぜられる（月俸25円）
明治17年11月　小学市川学校長兼一等訓導に任ぜられる
明治20年６月　（中巨摩郡）西部高等小学校に転じる
明治23年11月　（普通免許状を授与される）
爾後　（中巨摩郡）西部小学校訓導を兼務
明治29年９月　東八代郡視学となる
明治30年４月　（東山梨郡）日下部高等小学校訓導兼校長（現職・月俸25円）となる

78 前田綏壽　山梨県士族　天保６年生まれ
山梨県　高等小学校訓導兼校長

明治６年10月　千野小学校訓導となる
明治15年10月　（山梨県にて小学高等科教員免許状を得る）
明治21年５月　千野小学校校長に任ぜられる
明治23年　（普通免許状を授与される）

79 岩本節次　長野県士族　嘉永２年生まれ
長野県　高等小学校訓導兼校長

明治８年１月　筑摩県下等小学師範学科を卒業
明治８年３月　（伊那郡）飯田学校に奉職して五等訓導となる
明治９年11月　長野県（諏訪郡）落合学校に転任
明治15年６月　（小学高等科免許状を受ける）
明治20年４月　同校長に任ぜられる
明治25年10月　（普通免許状を授与される）
明治25年　落合高等小学校訓導兼校長にして，なお落合尋常小学校訓導兼校長を兼任する
明治27年３月　（月俸20円となる）
その後　（昇給する）

80 村木　迩　岩手県士族　嘉永２年生まれ
岩手県　高等小学校訓導

明治７年５月　桂子澤小学校仮教師となる
明治８年３月　（下等小学科教員免許状を得る）
明治10年７月　宮城県師範学校（小学師範科）を卒業
宮城県知新小学校訓導兼仙台師範学校教員となる（月俸20円）
明治12年６月　仁王学校訓導となる（月俸15円）
明治15年　（南岩手郡）仁王小学校五等訓導に任ぜられる（月俸16円）
明治20年２月　南岩手高等小学校訓導となる
明治21年１月　校長心得を兼任
盛岡市高等小学校訓導（現職）となる
（普通免許状を得る）

81 大谷直郎　福井県士族
福井県　小学校長

明治７年　敦賀県第二六中学区咸章小学校訓導となる
就将中学校訓導に転じる
明治14年２月　公立小濱中学校教員を嘱託される
明治14年12月　二等助教諭に進む
その後　一等助教諭に進む
明治19年７月　廃校となり，彦根の中学校教員となる
明治20年４月　福井県（遠敷郡）小濱小学校訓導を命ぜられる
彦根の淡海女学校教員兼校長を嘱託される（月俸18円）
明治24年６月　福井県小濱に転じる
明治25年６月　小濱尋常高等小学校訓導兼校長に任ぜられる
明治27年10月　（普通免許状を授与される）
明治29年４月　福井県（遠敷郡）雲城高等小学校訓導兼校長（現職）に任ぜられる

82 福井寅房　富山県士族　安政元年生まれ
富山県　小学校長

明治９年５月　石川県富山師範学校（小学師範学科）卒業
明治９年12月　石川県（上新川郡）東岩瀬小学校10等訓導に任ぜられる（月俸５円）
明治10年　（上新川郡）日盛小学校に転じる
明治12年９月　（月俸７円となる）
明治18年７月　六等訓導に任ぜられる
明治19年　五等訓導に進む
明治22年　富山県（上新川郡）自卑小学校訓導兼黒瀬小学校長（月俸10円）に任ぜられる
明治25年８月　富山県（上新川郡）蜷川尋常小学校訓導に任ぜられる
明治28年　同校兼任校長に任ぜられる
明治31年４月　（月俸14円となる）

83 遠藤　薫　鳥取県士族　嘉永６年生まれ
鳥取県　高等小学校長

文久元年　尚徳館にて漢学を修業
慶応３年　絵書を修業
明治５年　旧尚徳館で佛語，漢学等を修業
明治７年４月　官立広島県師範学校に入学
明治８年12月　同校（小学師範学科）卒業
小学校教員伝習所四等訓導となる
明治10年　鳥取師範学校訓導兼監事兼鳥取中学校教諭となる
明治13年７月　松江師範学校訓導に転任
明治15年10月　鳥取師範学校助教諭となる
明治17年９月　邑美法美岩井郡書記となる
明治18年８月　鳥取高等科小学校長を兼任
明治23年３月　専任因幡高等小学校長となる
明治26年　校名改め鳥取高等小学校訓導兼校長となる
高等女学校教諭を兼務

84 尾古謙藏　兵庫県　嘉永５年生まれ
函館区　高等小学校訓導兼校長

夙に　漢学に清く傍ら書をよくす
明治10年11月　開拓使御用掛となり函館支庁在勤（会所学校教員）を命ぜられる
明治11年６月　小学教科伝習所教員を申付けられる
明治13年11月　依願御用掛を免ぜられる
即日　函館師範学校三等教諭を拝命（月俸23円）
明治15年２月　開拓使が廃され函館県が置かれると，
同県函館師範学校三等教諭を申付けられ，副監事となる
明治16年８月　二等教諭にすすむ（月俸30円）
明治16年12月　（文部省から六國史一部，硯箱一個を附与される）
明治18年　函館女学校二等教諭を兼任
尋で　函館女学校監事を申付けられる
明治19年　北海道庁が置かれ函館女学校が廃されると，
函館商業学校雇を申付けられる
明治20年１月　函館商業学校一等助教諭に任ぜられる
明治21年12月　同校教諭に昇進
明治23年８月　（小学校有期地方免許状を得る）
直ちに　（函館区）彌生小学校訓導兼函館商業学校教諭に任ぜられる
明治24年３月　本官を免ぜられ専ら函館商業学校教諭に任ぜられる（月俸33円）
明治24年10月　（月俸35円に増俸）
明治26年　（文部省より尋常師範学校中学校高等女学校倫理科教員及び尋常師範学校中学校漢文科教員免許状を取得）
明治27年３月　函館女子高等小学校訓導兼校長（現職）に転じる（月俸30円）
函館尋常中学校習字科教員を嘱託される（月手当10円）
明治27年８月　（小学校教員無期地方免許状を取得）
明治28年４月　（三級上俸，月俸35円に昇給）
・開拓使，函館県，北海道庁より前後数十回賞金をもらう

85 鶴田　保　佐賀県士族　嘉永６年生まれ
佐賀県　尋常小学校訓導兼校長

明治９年　小学科伝習を卒業
（佐賀郡）飯盛小学校の教員となる
明治11年　（佐賀郡）早都栄小学校（現任校）教員となる
明治16年　（初等科教員免許状を取得）
尋で　（小学中等科高等科８科目教授

の免許状を取得）
明治17年11月　早津江学区中等公立早津江（早都栄）小学校長に任ぜられる
明治20年12月　同校の改称である高等盈進小学校に任ぜられる
明治22年８月　校名が旧に戻る
明治25年４月　（佐賀郡）早津江尋常小学校訓導兼校長（現職）となる

86 南　和　大分県士族　嘉永２年生まれ　大分県　尋常小学校訓導兼校長

明治２年１月　臼杵藩立集成館に入学し漢籍を修める
明治６年２月　盡知塾に入って普通学を研究する
明治７年６月　文部直轄大阪師範学校に入学
明治９年４月　同校（小学師範学科）を卒業
明治９年４月　滋賀県時習学校三等訓導に任ぜられる（月俸20円）
明治11年２月　大分県臼杵学校三等訓導に任ぜられる
明治15年９月　同校校長となる
明治20年　（改正により月俸20円→12円に減俸）
明治20年６月　兼任（北海部郡）高等小学校長となる
明治21年２月　（小学校教科用図書審査委員となる）
明治21年４月　兼任（北海部）郡南部高等小学校長となる
明治24年８月　（普通免許状を授与される）
明治25年７月　学区学校設立の改正のため，大分県（北海部）郡臼杵尋常小学校訓導に任ぜられる（月俸13円）
同月　同校校長に兼任せられる
明治25年　（大日本教育会長より銀製会章を贈られる）
明治30年４月　（月俸15円となる）

87 箕村喜佐太郎　徳島県士族　嘉永５年生まれ　徳島県　尋常小学校訓導兼校長

明治２年　漢学を修業，数学も修める
明治８年11月　名東県佐古町作新小学校二等授業となる
同，一等授業となる
同，准訓導となる
明治13年８月　六等訓導となる
四等訓導に累進
明治18年２月　兼任校長となる
明治28年４月　（普通免許状を授与される）
明治30年８月　（月俸20円となる）

88 金本鹿之助　島根県士族　安政３年生まれ　島根県　小学校訓導兼校長

明治７年９月　島根県第20中学区今市小学一等助教となる
明治８年10月　島根県教員伝習校に入学する
明治９年７月　同校（小学師範学科）を卒業
第23中学区鹽治小学校教師となる（月俸８円）
明治13年７月　今市小学校訓導となる
明治16年６月　同校校長（現職）を兼任（月俸12円）
明治30年８月　（月俸17円）
「篤実温厚」

89 松本　譲　岡山県　天保11年生まれ　岡山県　小学校訓導兼校長

明治７年10月　北条県伝習所に入る
明治８年２月　同卒業
（勝北郡）明知小学校訓導となる
12年間，他の地に奉職
（勝北郡）明智小学校訓導兼校長（現職）となる

90 三上主一　広島県士族　嘉永３年生まれ　広島市　高等小学校訓導兼校長

幼にして　頴悟，藩学問所の句読師を勤める
明治８年６月　広島県下等小学正科教員となる
明治11年９月　第四大区在勤の小学訓導となる
明治13年９月　広島県督業訓導となり御調郡に在勤する
明治14年10月　御調郡書記に任ぜられる
明治15年４月　広島区書記に転任
明治16年２月　広島県（賀茂郡）広中央小学校一等訓導（月俸26円）になる
明治16年９月　広島区公立本川小学校長兼一等訓導（月俸12円）になる
明治18年11月　（月俸14円に）
明治21年５月　（月俸10円に）
明治21年８月　広島区温知高等小学校長になる
爾後　同区広島高等小学校訓導，袋町尋常小学校長等を兼務
現に　広島高等小学校訓導兼校長（月

俸一等中級）となる

91 山本象六　広島県士族　弘化４年生まれ
広島県　高等小学校訓導兼校長

安政元年　習字科を修める
安政６年　安芸学問所にて漢学等を修める
傍ら信抜流剣術を修業する
慶応２年11月　和算，体術，砲術を修業
明治元年９月　練兵式並砲術等を専ら修業
明治２年４月　下等普通学科卒業
明治６年10月　（安芸郡）牛田小学の教師となる
明治８年９月　広島県公立師範学校に入る
明治９年５月　同校（小学師範学科）卒業
第一大区五小区就徳舎在勤となる（月俸８円）
明治15年３月　広島県公立小学校三等訓導（月俸20円）となる
（山県郡）有田小学校在勤となる
明治17年５月　同校校長となる（月俸20円）
明治18年７月　（山県郡）督業（月俸15円）となる
明治23年３月　広島県（沼田郡）沼田小学校長（月俸16円）となる
明治24年８月　（普通免許状を得る）
明治26年７月　（大日本教育会より功績表彰される）
（月俸三等上級に昇給）
明治27年　（小学校図書審査委員となる）
明治31年　（沼田校職員，卒業生より花瓶銀杯等を贈られる）
明治31年１月　（安芸郡）呉高等小学校訓導兼校長（現職）に任用される
「資性頴敏才」「文武」「忠」

92 安藤紀一　山口県士族　慶応元年生まれ
山口県　高等小学校訓導兼校長

明治16年３月　山口県師範学校に入学
明治18年11月　同校（高等師範学科）卒業
明治18年11月　山口県（阿武郡）明倫小学校訓導（月俸20円）となる
爾後　同校にて昇給，校長事務取扱の任にあたる
明治28年10月　（普通免許状を授与される）
同校訓導兼校長となる

93 佐々木佑　山口県士族　慶応２年生まれ
山口県　高等小学校訓導兼校長

明治16年３月　山口県山口師範学校に入学
明治18年11月　同校（高等師範学科）卒業
山口県（都濃郡）岐陽小学校訓導（月俸12円）となる
明治20年12月　山口県訓導，小学督業となる（月俸15円）
明治22年　（吉敷郡）鴻東小学校在勤を命ぜられる
（小学校教科書審査委員となる）
明治22年３月　山口県師範学校訓導（月俸16円）となる
簡易小学校教員，尋常小学校授業生予備学科講習所を兼務
明治25年12月　山口県（豊浦郡）豊浦高等小学校訓導（月俸18円）となる
校長も兼務
明治28年10月　（普通免許状を授与される）
爾後　山口県師範学校訓導，助教諭となる
豊浦小学校訓導兼校長（月俸30円）となる

94 森松次郎　和歌山県士族　安政元年生まれ
和歌山県高等小学校訓導兼校長

明治10年１月　官立大坂師範学校を卒業
第二十二番中学区養成学校三等訓導を申付けられる（月俸20円）
明治11年９月　第二十一番中学区湯浅駐在を申付けられる
尋で　（西牟婁郡）養成学校在勤となる
明治15年11月　（西牟婁郡）田邊小学校（現任校）二等訓導に任ぜられる
明治18年６月　同校兼任校長（現職）となる（月俸12円）
明治24年　（普通免許状を授与される）
（月俸昇給）

95 長倉英士　宮崎県士族　天保７年生まれ
宮崎県　高等小学校訓導

幼にして　大いに学を好む
藩校に入って勉学する（８歳）
振徳堂句読師となる
萬延元年　安井息軒の門に入る（25歳）
元治元年　振徳堂助教となり，藩主世子の

	侍読を兼ねる
慶応元年	郷勇隊長を兼務
明治４年	飫肥県となるや，教授，訓導，地誌取調となる
	（南那珂郡）飫肥小学校授業生，訓導となる

96 森下庄司　高知県士族　弘化４年生まれ
宮崎県　尋常小学校訓導

嘉永６年	高知柴田敬吉の門に入る
安政元年	同所島崎忠藏の門に入る
安政４年	松下與膳の門に入り皇漢の学を修める
	京都学習院に入る（14歳）
慶応元年	学問専業致道館に入塾申付けられる
明治元年９月	東京昇平学校に入学
明治９年２月	高知静倹学校助教となる
明治11年	日向国に赴き数年小学校教授に従事する
明治19年３月	授業生講習所に入る
	（児島郡）小川小学校授業生となる
明治21年３月	（児島郡）村所小学校に転じる
明治27年10月	（正教員の免許状を受ける）

97 日高義質　宮崎県士族　天保６年生まれ
宮崎県　尋常小学校訓導

幼より	文武二道を修める
弘化５年	阿萬私塾に入って漢籍国史を学ぶ
嘉永元年	珠算を学ぶ
	清武郷校の主事，句読師となる
文久２年	安井息軒私塾に入り漢学を修められる
明治２年	助教に任ぜられる
明治５年	清武小学校教師となる
明治６年	紫波洲小学校に転勤
明治10年９月	賊徒に與したる件により自宅謹慎を命ぜられる
明治10年10月	免罪となり再び紫波洲小学校教師となる
明治15年	清武小学校授業生となる
明治24年	同郡今泉小学校に転任
明治28年３月	（尋常本科正教員となる）
明治28年12月	同郡大久保尋常小学校訓導（現職）に任ぜられる

「専心一意」

98 横山良至　宮崎県士族　安政３年生まれ
宮崎県　小学校訓導

明治４年	（諸県郡）高岡郷校に入る
明治５年11月	同校助教となる
明治７年８月	宮崎学校入学
明治８年６月	師範学科を卒業
明治８年12月	ふたたび師範学校を卒業
爾後	宮崎学校の教師となる
	高岡小学校教師となる
明治16年	同校授業生となる
	高岡尋常高等小学校准訓導（但，高等本科正教員勤務）となる

99 戸澤政恒　神奈川県　嘉永５年生まれ
神奈川県　尋常高等小学校訓導兼校長

明治６年12月	小田原町啓蒙学校授業生を命ぜられる
明治７年９月	（足柄上郡）金子村小学賛育館訓導を命ぜられる
明治９年２月	（愛甲郡）妻田学校訓導を命ぜられる
明治10年６月	（足柄上郡）下大井学校に転任
明治15年９月	小田原町啓蒙学校長代を嘱せられる
明治17年９月	（中等科教員免許状を得る）
	同校五等訓導となる
明治18年１月	幸学校に転任
明治24年	啓蒙学校に復職
明治25年10月	尋常多古小学校（現任校）訓導に任ぜられる
明治26年２月	同校兼任校長（現職）となる